

News Source

## 蠟管デジタル化音源を沖縄県立図書館へ提供

大谷大学図書館／大谷大学博物館



北里蠟管レコード

たけし  
 「北里蠟管レコード」は、日本語の語源を研究されていた北里 蘭氏 (1870-1960) のご遺族より、1963年2月に本学図書館へ寄贈されました。その後1985年、北海道大学においてレーザー光を用いた非接触法によって再生された音源はカセットテープに収められ、以来、図書館において利用に供してきました。蠟管レコードに収録されていたのは、沖縄をはじめ、台湾、フィリピン諸島、東北、北海道、樺太等現地で録音された言葉や歌謡です。1985年にカセットテープに再生された際には、アイヌの言葉を継承・研究する方々や北海道等で話題になりましたが、他の地方の音源はそれほど話題になることがありませんでした。本学図書館としてもカセットテープでの保管・利用提供継続に不安を持っていたので、今回、沖縄県立図書館からのお申し出を機会にデジタル化(ノイズ除去を含む)し、複製を提供することになりました。「北里蠟管レコード」および蓄音機の現物は、現在博物館にて所蔵しています。(カセットテープ音源化の経緯については、「書香」第5号記事をご参照ください)

「北里蠟管レコード」の録音内容は、北里蘭氏手書きの蠟管外箱記録によってある程度判明していますが、内容が不明なものも多くあります。また録音環境のせいもあり音質はよくなく聞き取りにくいのも特徴です。今後、言語学や古代歌謡等を研究される方々にも聴取していただき、内容等の研究が進むことを念願しています。

2019年3月17日、本学所蔵資料である「北里蠟管レコード」のカセットテープ音源をデジタル化し、その複製を沖縄県立図書館へ提供しました。今回の複製音源提供は、約100年前の沖縄歌謡のカセットテープ音源を本学が所蔵しているという記事が2019年1月1日に沖縄県内の新聞に掲載されたことが端緒となりました。沖縄県立図書館では提供した音源の一般利用を5月末より開始され、イベント等でもご活用いただいています。

「北里蠟管レコード」は、日本語の語源を研究さ



贈呈式の様子